



市議会報告 2025年秋号

生活相談は毎月第2、第4火曜日 ふれあい事務所（霞ヶ関北3-1-5）まで HP：<http://kakita.ac>

給食と連携して農業活性化を

コメ不足と価格の高騰が続くなか、収穫の季節を迎えています。妻の実家を手伝ってコメ作りもしていますが、農作業は力仕事ということもあって、最近は私よりも私の子どもたちのほうが戦力です。9月の議会では、コメ作りを中心に市内農業の活性化をとりあげました。

今までは保護者からの給食費の範囲が原則だったので、物価高騰のなかでブランド力のある市内産の野菜や国内産の加工品の使用を含め、質や量にも限界があります。もりた市長は学校給食費の無償化に熱心で、食材確保に税金が投じられるようになったので、意識的に市内農産物や加工品を使うようにすれば、安全安心な食の提供と、市内産業の活性化が図れると考え質問しました。

D Xの現状を見る

議員の前職に民間でプログラマをしていたこともあってデジタル技術に関する分野は私の仕事の一つだと受け止めこの間の行政デジタル化の様子を見てきました。

D Xの導入による事務処理の変化では、AI-OCR・RPAの導入で、紙の申請書情報をシステム入力していた作業が電子データ化と入力の自動化が図られました。会議等の音声データのAIテキスト化システムでは、職員が音声から文字起こししていたものをシステム化。電子決済の導入ではペーパーレス化と押印の削減、出先機関からの書類運送が不要に。都市計画情報や道路台帳平面図等の発行、支払いのデジタ

ル化で職員の対応が減少。これらにより、待ち時間の短縮や職員の負担軽減が図られています。

市の事務でのデジタル技術の使用を見ると、住民サービスや公共事業、調査等の市が行う業務は情報システムで電子的に処理されており、紙だけで処理している業務はほとんど無くなっています。

一方で、システム開発や運用を含めて、民間事業者への委託が増え、コンサルティング業務などで専門的な知見も民間に頼ることが多くなっています。

行政内での知識の蓄積や技術の継承が弱くなっていくことに懸念を示したほか、職員が直接対応する窓口業務も、市民に寄り添う姿勢を大切にすべきと訴えました。

地域での活動の様子



高校生世代にデジタルギフト支給 補正予算

今回の補正予算は、4億7974万円。補正の内容は、物価高騰対策として、①高校生世代へのデジタルギフト1人1万円を給付(約9500人) ②ひとり親世帯等生活応援支援金は、児童1人2万円を給付(約3000人)、多機能端末機の導入は、コンビニ交付サービスと同様の端末機を市役所1階市民課・ユープレイス3階川越駅西口連絡所に設置、病児・病後児保育室を利用する保護者の利便性の向上等を図るため、WEB予約システムを市内4施設に導入します。(令和8年3月からの稼働開始を予定)

公共施設における照明器具のLED照明への切替約6287万円、道



なぐわし公園

路等維持補修整備、やまぶき会館の屋上防水修繕、なぐわし公園整備運営事業(次期事業者選定を行うために債務負担行為設定)などとなっています。

補正予算成立後の未計上の前年度剰余金は約19億円であり、今後の補正予算の財源などとして充てられます。党議員団は、物価高騰が続く中で市民や事業者への支援を行なうよう市に求めてきました。

介護報酬再改定の請願が採択

「訪問介護の基本報酬引き下げ撤回と介護報酬引き上げの再改定を早急に行うことを求める意見書」の提出を求める請願は、3名が紹介議員となり、この英子議員が筆頭紹介議員として保健福祉常任委員会に招致され、委員からの質疑に答えました。

川越市社会保障推進協議会は、請願提出にあたり、市内介護事業所や職員から直接実態を聞き取りし、227名の署名を集めました。請願審査では、昨年度市内で5件の閉鎖があり、介護事業所のヘルパー確保や運営が厳しいなどの危機感が共有されました。国の早急な改定が待たれます。

市政こんだん会

11月22日(土) 9時30分～12時
ウェスタ川越 2階 活動室3
ご意見・要望をお寄せください。